

Audio Accessory

●総力特集：「新世代オーディオのためのDAコンバーター」PCからiPod、CDプレーヤーのグレードアップを提案！

●コンパクト時代の幕開け！「小型ブックシェルフスピーカー」決定版スクランブル・テスト

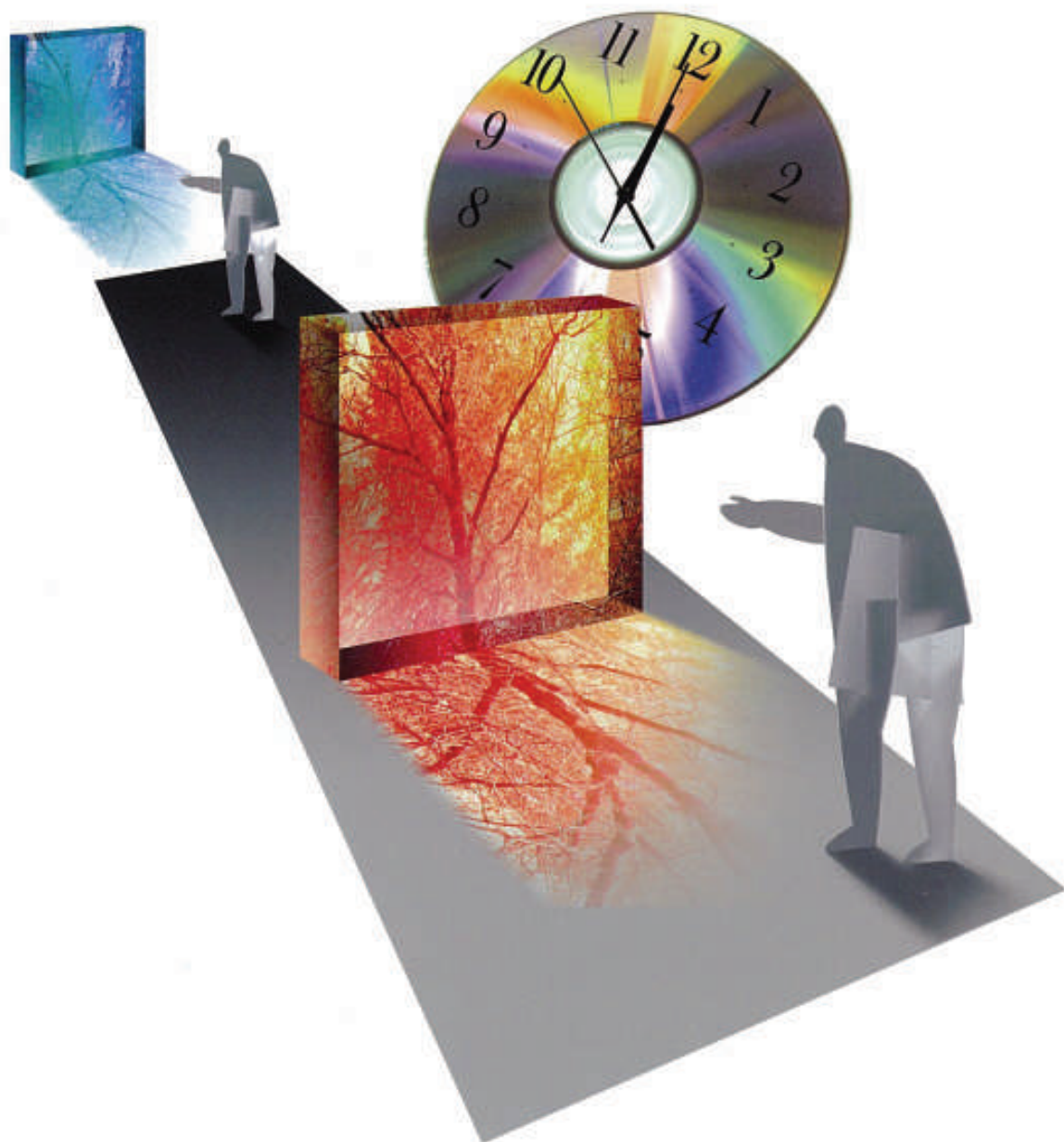
●重点アクセサリ研究：インシュレーターブランド回鑑 - その効果から設置法までを徹底レポート - ●旬の音本舗・福田屋

●江川三郎実験室 ●ジャズびたりオーディオ桃源郷 他



オーディオアクセサリが
コンテンツ供給連動マガジン

巻頭 特別対談
ピュアオーディオ再生が
いよいよ新ステージへ突入！



2010 SPRING

136

オールカラー記事でお届けする
ピュアオーディオマガジン

小型ブックシェルフスピーカーカーブテスト



取材・執筆
石原 俊
Shun Ishihara

~人気の27モデルを一齐试听!!~

- KEF IQ30
- mhi Evidence MM01A
- PIONEER S-71B-LR
- ONKYO D-412EX
- MONITOR AUDIO RX2
- DALI MENTOR MENUET
- PIEGA TMicro 3
- FOSTEX GX102
- Mark & Daniel Maximus Mini+
- B&W CM5
- 47 Laboratory Model 4722
- MURATA ES701 Suono京
- amm AM-105i
- DYNALDIO EXCITE X16
- ELAC 310CE
- TIGLON TLS-100M
- SPENDOR SA1
- ProAc TR8
- QUADRAL PICO
- BC acoustique B-1
- SONUS FABER Monitor
- HARBETH HL Compact 7ES-3
- KRIPTON KX-3P
- TANNOY Definition DC8
- Joseph Audio RM7XL
- JBL 4429
- PENALDIO CHARISMA



近年、国の内外を問わず、小型ブックシェルフスピーカーには数多くの人気モデルが登場している。本特集では、エントリーモデルはもちろん、第2、第3のサブシステムをも狙える優良モデルをピックアップ。一斉スクランブルテストを行った。

現代の小型ブックシェルフ機は音が良い!! そのアドバンテージを探るべく一斉テストを実施

近年、ヒットモデルが数多く登場している小型ブックシェルフスピーカー。そのサイズゆえの鳴らしやすさや、現代的にデザインされた音質は従来の大型スピーカーを凌駕する性能を秘めている。

大型スピーカー戦争の終結と 小型スピーカー時代の幕開け

我々は2010年代という時代に突入した。21世紀になって十年目を迎えたのだ。この10年で分かってきたことは、どうやらこの世紀は小型スピーカーの世紀になりそうだということである。

なぜか。やはり、小型スピーカーは音が良いからである。

前世紀の中頃に生まれた筆者と同世代や少し前の世代の愛好家は、大なり小なり大型スピーカーに関わった経験を持っている。関わったというよりも、戦ったと記した方がいいかもしれない。それほど大型スピーカーは厄介な代物であった。どこが厄介かという点、それはずばり低音である。15インチ(超)クラスのウーファーを持つ大型機の低音は、野放図に出るかと思うと、どこかへ消えてしまうのだ(二階のリスニングルームではまったく低音が出ないのに、階下の風呂場では盛大に低音が響いている、みた

いなケースがままある)。

その対策としては、機械的な方法(スピーカーと床の間に何らかの物体を介在させるのが一般的で、ブロック塀材、短く切った材木、コルク材、金属の正六面体、スパイク、防振式インシュレーターなどを用いる)と、電気的な方法(グラフィックイコライザーなどで帯域のバランスを矯正する)が考えられるが、前者は出たとこ勝負的な要素が大きく、後者は音の鮮度が落ちるといふ副作用がある。

で、我々はこの戦いに勝ったのか? 大型スピーカーの低音を見事に征服し、勝者としての幸福なミュージックライフを送っている御仁もおられることだろう。低音を制御しきれず、それでも頑なに大型スピーカーとの泥沼の長期戦を戦っている勇者もおられるに違いない。だが、オーディオ愛好家共和国のようなものが存在すると仮定すると、この国家は大型スピーカーとの戦争から撤退し、小型スピーカーと平和裏に共存する道を選

んだ、というのが2010年の現状ではないだろうか。

小型ブックシェルフが 鳴らしやすいワケとは?

小型スピーカーは低音が出ないと誤解されがちだが、現在の技術ではそんなことはほとんどない。そのキリリと締まった低音は制御しやすく、前述の機械的なコントロール手法にも素直に反応する。電気的に帯域バランスを補正する必要は

まずない。しかも小型スピーカーはエンクロージャーが小型ゆえに音の回折や不要共振が少なく、巧く鳴らせば音場表現力においてはハイエンドの大型機を凌駕しさえする。このアドバンテージは、濃密な音場感を有するハイビット/ハイサンプリングのPCオーディオとの組み合わせでも絶大な効果を発揮するであろう。今回テストしたのは27機種。昨今はスピーカーの初期設計に同系統のソフトウェアが使用されるケースが多く、どれも同じような音なのではないかという心配



R.シュトラウス「英雄の生涯」
メタモルフォーゼン」
ファビオ・ルイーゼ
SICC10049



シューベルト「ます」/
シューマン「ピアノ五重奏曲」
田部京子&カルミナ四重奏団
CCGO-31

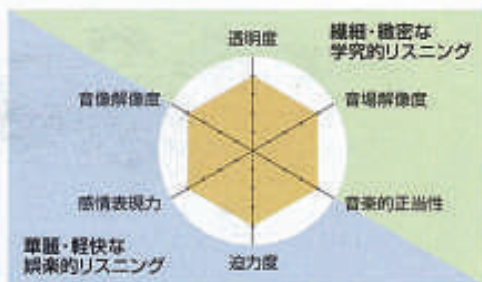


「アルベニス」ピアノ名曲集」
下山静香
MF22803

レファレンス
ソフト

取材・執筆 石原 俊
Shun Ishibara

傾向表の見方について



スピーカーの個性を視覚的に表現

各モデルの音質の傾向を視覚化すべく「音質傾向表」というグラフを作った。これはいわゆる採点ではなく、あくまでもサウンドの方向性を示すものである。試聴のポイントは6つ。「透明度」は聴感上のS/Nの良さを、「迫力度」は同じく聴感上の押しの強さを示す。「感情表現力」は演奏に対するデフォルメ感の多さを、「音楽的正当性」はその少なさを表す(両者はどちらか一方ということはなく、あらゆるオーディオ機器に混在していると筆者は考える)。解像度に関しては一律に印象を示せないで、「音場解像度」と「音像解像度」に分類した。また、これらの項目は、大まかに二つのグループに分類でき、右上の3項目にグラフが振れているほど繊細・緻密な学術的リスニングに適し、左下の3項目に振れているほど単純・軽快なエンターテインメント的リスニングに向いていると考えることも可能である。

レファレンスシステム



プリメインアンプ
ACCUPHASE E-250
¥294,000



CD/SACDプレーヤー
MARANTZ SA-7S1
¥735,000



真空管プリメインアンプ
LUXMAN SQ-38u
¥378,000

が、筆者の心の片隅になかったといえはウソになる。

しかし、試聴に臨んだ結果、それは杞憂にすぎなかったことに気付いた。「音は人なり」という言葉が象徴するように、人間の耳が介在するスピーカー作りには、メーカーという法人よりも、設計者/製造工程担当者という人のかかわっている要素が強く、それが音に反映されるからである。

総勢27モデルを一斉テスト レファレンス・環境について

テストは本誌試聴室で行った。この部屋は秋葉原のオフィスの五階に位置しており、ある程度の防音処理は施しているものの、音響特性的には一般的なリスニングルームに近いようにチューニングされている。

ディスクプレーヤーはマランツのSA-7S1を使用した。この種のテストではレファレンスクラスのセバレートアンプを使うケースが多いのだが、今回は実際の組み合わせを想定して、アキユフェーズのエントリーモデルのプリメインアンプであるE-250を起用した。また、通常、この種のテストは比較的大音量で行うのだが、ここでは小音量時の音楽的

再現性にも焦点を当てている。さらには真空管アンプとの相性を探るべく、ラックスマンのSQ-38uとの組み合わせも聴いた。

試聴に用いた音楽は、擬古典的な録音のジャズ、いくつかのボーカル、ピアノソロ、室内楽、いくつかの後期ロマン派の交響曲/交響詩である。長丁場のテストゆえ、聴き手である筆者の耳がマヒしないよう、ボーカルとオーケストラものに関しては複数のディスクを聴いた。

完全な同一条件でテストをしなかったことをお詫びすると共に、ご理解を賜れるよう伏してお願ひ申し上げる。



[NINA DE FUEGO]
BUIKA
513004



[take love easy]
Sophie Milman
KCD-CD-5115



[Lush Life]
Jacintha
GRV1011-3



[The Snapper]
Akira Matsuo New
Fronteer Quintet
TYR-1013



R. シュトラウス「アルプス交響曲/4つの最後の歌」
ファビオ・ルイージ
SICC10079

Evidence MM01A

¥84,000 (ベア・黒) / ¥89,250 (ベア・白)

Profile

mhiは、バイオニアなどでいくつもの優秀機の開発にあたったEd Kojima氏が創立したブランドだ。本機はその1号機で、氏が自ら使用するために開発したという。リボン型トゥイーターとコーン型ウーファの2ウェイ構成で、さまざまな部分にこだわりが見られる。

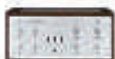
SPEC

- 型式:2ウェイ(バスレフ) ●ユニット:4.5インチ紙コーンウーファー、ピュアアルミリボン型トゥイーター ●周波数特性:65Hz~120kHz ●能率:90dB ●クロスオーバー周波数:10kHz ●インピーダンス:4Ω ●サイズ:152W×247H×229Dmm ●質量:4.0kg ●取り扱い:サエコマース(株)



リボントゥイーター搭載 mhiの優良小型ブックシェルフ

真空管アンプとの マッチング



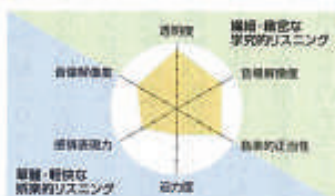
LUXMAN SQ-38U

善し悪しの問題はとりあえず別にして、激変することは確かである。解像度の高さなどのクオリティは同じレベルなのだが、音がメイプルシロップをかけすぎたパンケーキのように甘くなってしまふのだ。しかしながらダイエット食品風の最新録音に飽き足りない人は、ひとたびこの世界にハマったら抜け出せなくなるかも。

●●● 小音量時の音楽的再現性

もともと大音量を出すためのスピーカーではないので、小音量の解像度は極めて高い。スピーカーに接近すれば、隣人はもとより家族にすら悟られることなく、音楽の世界に遊ぶことができる。ただし、リボン型トゥイーターは指向性が限られているので、スピーカーに正対したポジションで聴かなければならない。

音質傾向表



●総合評価
生々しい音の粒立ちを聴かせる
価格以上のクオリティを実感

設計者がポーカーや室内楽を楽しむために作ったモデルなので、ジャズを大音量で鳴らすのには向いていないのでは、と思ったが、本誌試験室における中音量程度ならば何の問題もなかった。試験盤の擬古典的録音とも相まって、音像は切れ味が鋭く、いわゆるジャズ的な音場感も十分に感じ取ることができる。リボン型トゥイーター特有の、ややキンキンした質感はあえて隠していないようで、トランペットやサクソスはかなり直線的に突き進む。これは、リボンのもうひとつのクセであるヘナヘナ感と相反しているのだ。個人的には好感が持てる。ポーカーは声の音像に輪郭線がないのが特徴的で、バックバンドが左右のスピーカーからはみ出るようなスケール感もある。クラシックのピアノソロは、さすがに

等身大的スケールというわけにはいかないが、広大な音場に楽器のフレイムが浮かび上がる。音の粒立ちや和音のブレンド感も申し分ない。この試験では室内楽にシチュエルトの「ます」という比較的大編成の作品を選んだので、このサイズのスピーカーだと音量コントロールが難しい。音量を少しでも上げすぎると試験室の体積ではなく音場の体積内の音像の割合が大きくなりすぎ、飽和状態になってしまうのだ。しかしながら音量調整が上手いけば、かなり生々しい音を聴くことができる。オーケストラものも、聴き手側のコントロール次第で上手いく。この種のスピーカーで後期ロマン派の大規模作品を大音量で鳴らすのは不可能だが、近接ポジションで聴けば非常な満足度を得られる。まるでヨーロッパの古いコンサートホールの機軸席で大曲を聴いているかのように、ユーザーが特質を理解して使えば、価格を大きく超えたクオリティが得られるモデルである。